

No. 54

February.
20232016年
朝日がん大賞
受賞2005年
保健文化賞
受賞

日本医師会 JACR 共催シンポジウム開催報告

「新型コロナウイルス感染
拡大とがん統計」SARUKI Nobuhiro
猿木 信裕

群馬県衛生環境研究所所長 / 日本がん登録協議会理事長



日本がん登録協議会（JACR）では2014年以降、日本医師会と共催シンポジウムを開催してきました。2020年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により開催を見送りましたが、2021年度は「新型コロナウイルス感染拡大とがん統計」をテーマに2022年1月31日にWEB開催し、310名の参加者がありました。

共催シンポジウムでは、はじめに日本医師会会長中川俊男先生が主催者を代表して、開会の挨拶をされました。続いて、厚生労働省健康局がん・疾病対策課長の中谷祐貴子先生、国立がん研究センター理事長中釜先生にご挨拶をいただきました。

シンポジウムI「我が国の状況」では、羽鳥裕先生（日本医師会常任理事）は、「コロナ禍における通常診療への影響について」、コロナ医療と通常医療を守るためには地域の医療機関の役割分担の重要性、コロナ禍におけるがん検診受診数の減少、ステージの進行、全国がん登録データの利活用の重要性等について報告されました。寺本典弘先生（四国がんセンター）は「コロナ速報版『がん登録でみる愛媛県のがん診療2020年診断』- 愛媛県がん診療連携協議会の試み」について、愛媛県内の医療機関の院内がん登録データをいち早く独自集計し、コロナ禍においては、検診・人間ドックが特に必要とされる年代でのがん検診受診率・発見率が低下していると報告されました。田淵健先生（都立駒込病院）は「東京都がん登録から見る新型コロナウイルス感染症の影響」について、2020年症例の受領段階の届出データでは前年診断症例と比較し、検診受診率は人流抑制の大きかった4-8月に特に減少しているが、進展度で見ると遠隔転移の症例は減少幅が小さかったと報告されました。高橋宏和先生（国立がん研究センターがん対策研究所）には「新型コロナウイルス感染症によるがん検

診およびがん医療への影響」について、がん検診やがん医療に関して適切に情報提供を行い、即時性のあるがん検診・がん罹患データ収集システムの構築の重要性についてお話しいただきました。

シンポジウムII「世界の状況」では、イザベル・ソジョルマタラム先生（国際がん研究機関サーベイランス副部長）から「Population-based cancer registries in the era of COVID-19: A Global Perspective」と題して、COVID-19の時代における住民ベースのがん登録について、特にパンデミックの初期（2020年4-5月）に構築されたコンソーシアム（250名の協力者）で行った世界的な迅速調査（データ収集、スクリーニング、予防）についてご報告いただきました。サビーネ・シーリング先生（オランダがん総合研究所上席研究員）には「The impact of the COVID-19 outbreak on cancer diagnoses, stage and treatment」と題して、COVID-19の感染拡大が、がんの診断や病期、治療に及ぼす影響について、オランダの全国がん登録と病理ネットワークから得られたデータを元にご講演いただきました。

COVID-19パンデミック時におけるがん登録集計について、海外からパンデミック早期のデータを用いてご報告いただきました。今後は日本のがん登録においても、短時間に速報値を報告できるような体制整備を期待しています。

シンポジウム開催にあたり、貴重なご講演をいただきましたシンポジストの皆様、ご協力、ご協賛いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。今回、演者の皆様のご厚意により、J-CIP Webに音声つきパワーポイントの資料等を掲載しましたので、是非ご覧ください。

(<http://jacr.info/jcip/empower/symposium.html>)